

平成19年度

川崎市総合福祉センター
指定管理事業報告書

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

目 次

1 はじめに

2 管理業務の実施状況

- (1) 地域福祉情報バンク事業について
- (2) 社会福祉研修センター事業について
- (3) 施設・設備の利用提供事業について
- (4) ニーズ把握方法と運営方針への反映及び地域との連携について
- (5) 事業の周知方法について
- (6) 施設及び設備の維持・管理について
- (7) 管理経費の縮減に対する取り組みについて
- (8) 個人情報の取り扱いについて
- (9) 安全管理への取り組みについて
- (10) 利用者からの意見・要望等への対応について

3 収支状況

- (1) 川崎市総合福祉センター収支状況

4 まとめ

5 資料

- (1) 地域福祉情報バンク事業資料
- (2) 社会福祉研修センター事業資料
- (3) 施設・設備の利用提供事業資料

1 はじめに

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会（「以下「本会」）では、川崎市総合福祉センター条例等に基づき、平成19年4月1日から平成20年3月31日まで、指定管理者として川崎市総合福祉センター（以下「センター」）の管理運営を行いました。

平成19年度は、5年間の指定期間の2年目にあたり、初めて一年を通してセンターの管理運営に取り組み、事業を実施しました。18年度に引き続き、「施設・設備の利用提供事業」を行うとともに、新たに、前年度の準備期間を経て、「地域福祉情報バンク事業」と「社会福祉研修センター事業」を実施しました（センターは、平成18年度に機能転換を図るための改修工事を平成18年9月から19年3月にかけて行い、実質的には19年4月に全面的にオープンしました。）。

19年度から事業を開始した「地域福祉情報バンク事業」については、総合相談窓口では、精神保健分野を中心に約2,000件の相談が寄せられ、「ふくし相談」、「かわさき障害者110番」、「専門相談」により対応しました。市民への福祉情報の提供に関しては、地域福祉情報データベースの構築については、データベースの基本となるボランティアグループや市民活動団体の実態調査を行い、約920団体の状況把握に取り組みとともに、市民が福祉情報を検索するためのパソコンを設置して利用提供を行いました。また、図書・ビデオ等の貸出事業では、本会が指定管理者制度で管理運営を受託している川崎市高齢社会福祉総合センター（以下「高齢社会福祉総合センター」）の図書資料とあわせて、一体的に検索・貸出するシステムを整えました。

「社会福祉研修センター事業」については、地域福祉活動の核となるコーディネーターを養成する「地域福祉コーディネーター研修」を基礎編と実践編に分けて開催するとともに、福祉施設や福祉団体の職員の資質向上を目的とする「社会福祉施設等職員研修」を中堅職員向けに開催しました。また、地域福祉活動への参加を促進するための「地域福祉活動入門研修」をボランティアや市民等を対象に開催しました。

「施設・設備の利用提供事業」については、ホール・各会議室・和室を適正・円滑に利用していただけるように、センター条例及び施行規則等に基づく利用提供を行うとともに、状況に応じて柔軟な管理運営を心がけました。また、利用者にとって使いやすい施設となるよう、利用者の要望の把握に努め、利用の促進に努めました。

また、センターの安全性と快適性を高めるため、経年により故障や劣化した設備等の修繕を実施しました。

2 管理業務の実施状況

(1) 地域福祉情報バンク事業について

① 専門委員会の開催

地域福祉情報バンク事業に関する専門委員会を平成19年12月21日に開催し、事業計画等を検討しました。

② 総合相談窓口の実施

相談事業については、日常生活の中で生じる様々な問題の相談に対し、相談者の話を十分に傾聴して問題を共有し、必要な助言又は情報提供を行うとともに、より専門的な助言を必要とする場合は専門相談に繋げるなど、きめ細かに対応しました。また、本会が従来実施し

てきた「ふくし相談」と旧（財）川崎市在宅福祉公社で実施していた「かわさき障害者110番」並びに「専門相談」を一体化し、相談業務の連携・強化を図りました。

ア ふくし相談

- ・専任相談員1名配置 ・相談件数 1, 177件

イ かわさき障害者110番

- ・専任相談員1名配置 ・相談件数 1, 245件
- ・相談員の資質向上の取り組み（研修会に参加）
- ・チラシの配布
- ・事業報告の配布

ウ 専門相談

- ・専門相談員3名（弁護士・医師・臨床心理士）配置 ※各月2回 ・相談件数61件
- ・「専門相談のご案内」（チラシ）の配布
区社協、老人いこいの家、地域包括支援センター、障害者生活支援センター等に配布。
（相談事業の詳細は別紙資料を参照）

③図書資料、ビデオ等の閲覧・貸出サービスの整備・実施

社会福祉、保健及びその他関連分野の図書資料等を収集し、貸出できる体制を整え、実施しました。

また、試行的に第3土曜日を開所して、市民の利便性の向上を図りました。

- ・図書資料所有数 2,049冊／ビデオ 257本
- ・利用者数 延べ67名
- ・貸出件数 図書89件／ビデオ39件（1件につき複数の貸出を含む）
- ・コピー機設置（一般利用を可能とした）

④図書資料、ビデオ等における検索システムの構築

インターネット上で図書資料等の検索が行えるように、地域福祉情報バンクと高齢社会総合福祉センターで保管している図書資料・ビデオ等のデータを一括管理するシステムを整えました。

⑤情報提供検索用パソコンの利用サービスの実施

市民がインターネットを通じて、地域の福祉情報等を検索・閲覧するためのパソコンを3台設置し、市民の情報収集を支援しました。

- ・利用者数 延べ21名

⑥ボランティアグループ及び市民活動団体の実態調査の実施

地域福祉情報のデータベースの構築を目的に、地域のボランティアグループ及び市民活動団体の活動状況を把握するための調査を区社会福祉協議会と協力して実施しました。

- ・調査対象団体数 936団体
- ・調査実施時期 平成19年11月
- ・回答数 529団体（回答率 56.5%）

(2) 社会福祉研修センター事業について

行政・社会福祉協議会職員を対象に、地域の中で支援を必要としている人に総合的な支援を行うためのコーディネーター能力を高める「地域福祉コーディネーター研修」を4コース開催す

るとともに、社会福祉施設及び団体の職員を対象とした「社会福祉施設等中堅職員研修」を3コース開催しました。また、ボランティアや市民を対象に地域福祉に対する理解を深め、福祉活動の必要性を学んでいただくことを目的とした「地域福祉活動入門研修」を3コース開催しました。また、研修内容等の企画にあたっては、高齢社会福祉総合センターの研修部門と情報交換を行い、効果的・効率的な研修の企画に努めました。

(実施状況は別紙資料「実施状況」を参照)

(3) 施設・設備の利用提供事業について

センター条例及び施行規則等に基づき、適正に施設・設備の利用提供事業を実施しました。

利用状況は、楽屋を除く施設全体（ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室）で、年間6,212件（利用区分）の貸出可能件数のうち4,280件の利用があり、稼働率は68.9%でした。

(利用状況は別紙資料「利用状況一覧表」を参照)

(4) ニーズ把握方法と運営方針への反映及び地域との連携について

センターの受付窓口に設置している「意見箱」やセンターホームページの「意見募集欄」などで、利用者の意見・要望の把握に努めました。

また、運営上の課題や問題点は、現場段階で改善できる内容については、センター内部の委託業務等を担う責任者による「責任者会議」（センター職員、空調・機械・電気・受付業務責任者、清掃業務責任者、ホール舞台運営業務責任者、警備業務責任者、レストラン店長による定例の連絡調整会議）等で、解決策を検討し、迅速に対応しました。また、重要案件や大きな問題については、本会内部で組織的に検討を行うとともに、川崎市所管課とも協議しながら、対応・改善に努めました。

地域との連携・交流等については、小杉地区町内会連絡協議会、県立大師高校、市立中原小学校、東京工業大学、(財)川崎市身体障害者協会等の学習会、社会科見学、視察等を受け入れました。

(5) 事業の周知方法について

センターのホームページで事業を広報するとともに、リーフレット（センター概要案内）、社会福祉研修センター事業の各種研修募集案内（チラシ）、地域福祉情報バンクの案内（ボランティア活動振興センター事業案内リーフレット）を作成して、区社会福祉協議会、区役所、公共施設、関係機関・団体等に配布し、センターの概要並びに各事業の周知に努めました。

(6) 施設及び設備の維持・管理について

専門性を必要とする業務については、適性かつ効率的な管理運営が行えるように、外部業者に委託して維持・管理を行いました。

また、センターの安全性と快適性を高めるため、経年により故障や劣化した設備等の修繕を実施しました。

①外部委託した専門業務

	委託業務	実施月・実施期間
1	ピアノ保守点検	6・12月
2	映写機保守点検	12月
3	施設受付サービス・電気空調運転管理業務	19年4月～20年3月
4	舞台運営管理業務	19年4月～20年3月
5	保安警備及び駐車・駐輪場管理業務	19年4月～20年3月
6	清掃業務	19年4月～20年3月
7	自家用電機工作物保守点検	4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・1・2・3月
8	舞台照明設備保守点検	6・2月
9	放送・電話・電気時計装置保守	4・12月
10	立体駐車場設備保守点検	4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・1・2・3月
11	自動ドア保守	6・10・2月
12	舞台機構設備保守点検	5・9・1月
13	エレベーター設備保守点検	4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・1・2・3月
14	シャッター保守	3月
15	非常用自家発電設備保守点検	5・11月
16	植木剪定業務	6・10月
17	リソグラフ保守契約	19年4月～20年3月
18	廃棄物収集処理	19年4月～20年3月
19	玄関マット賃貸	4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・1・2・3月
20	グリスフィルター貸借・厨房防災設備保守点検	4・5・6・7・8・3月
21	パソコンリース	19年4月～20年3月

②施設・設備の主な修繕

	修繕名	内容
1	消防設備改修工事	6階機械室の倉庫使用に伴うスプリンクラー移設工事。
2	ホール舞台モニター・カメラ設備の修理	経年劣化したホール舞台モニター・カメラの故障による交換・修理。

	修繕名	内 容
3	厨房設備（冷蔵庫）の修理	2階レストラン厨房設備の経年劣化したテーブル形冷蔵庫の故障による交換・修理。
4	ホール舞台リノリウムの修理	経年劣化した舞台リノリウム（バレエ・ダンス等の舞踏用専用マット）の交換・修理。
5	空調設備吸収式冷温水発生機の修理	冷温水二次ポンプ圧力制御弁用モーターの交換・修理。
6	I T V設備の修理	ホール舞台及び受付事務所のI T V設備（監視用モニター・カメラ）の故障による交換・修理。
7	ホール系空気調和機の修理	ホールの舞台・客席・ロビーの経年劣化した空気調和機のオーバーホール・修理。

（7）管理経費の縮減に対する取り組みについて

外部委託した主な専門業務については、経費の節減と業務の質の向上を目的として、入札を行い、委託業者を選定しました。

また、修繕については、センターのスタッフで修理可能なものは、経費を節約するため極力自前で行うとともに、外部業者に修理を依頼する場合には、複数業者に見積りを依頼して安価な業者に発注するなど、経費の縮減に努めました。

（8）個人情報の取り扱いについて

「川崎市個人情報保護条例」、「川崎市社会福祉協議会個人情報保護規程」及び「川崎市社会福祉協議会職員倫理綱領」に基づき、個人情報を適性かつ安全に取り扱い、適切な管理に努めました。

個人情報が記載されている書類等の取り扱いについては、決められた保管場所に保管するなど適正に管理し、不要になった場合は、シュレッダー等を使用して復元できない形にするなどして適切に処分しました。

（9）安全管理への取り組みについて

①事故防止への取り組みと事故発生時の連絡報告体制

危険や異常を察知するために警備員及びセンター職員による館内巡回を行うとともに、事故等の危険が予測される箇所については、改善又は表示を貼付けして注意喚起を促すなど、事件・事故の予防に努めました。

緊急連絡体制については、委託業務の責任者等を含めた有人・無人時における連絡体制を整え、連絡網を作成して関係者に配付し、周知を図りました。

また、センター内の従事者を対象に消防避難訓練を8月と2月に実施し、通報・避難誘導、防火扉・消防設備（消火栓・消火器）操作、AED（自動体外式除細動器）取扱い、啓発ビデオの上映等の訓練を行いました。

②発生した事故の内容、件数、対応状況

事故・急病・怪我については、発見・確認次第、迅速な対応に努めました。

施設・設備の利用提供事業において、利用者の怪我や体調不良により救急車の出動を4件要請するとともに、7階大会議室とロビーで利用者の荷物の紛失が1件発生しました。また、そのほかに、物損事故が1件発生しました。

急病人・怪我人の発生の際は、手順書に基づいて救急車を要請するなどして迅速に対応しました。荷物の紛失については、当人から警察に届けを提出していただくとともに、催し物の主催者に注意喚起を行い、警備員・職員による館内巡回を強化しました。

(事故内訳)

	発生月	事故内容	施設の対応 (受診の場合は医療機関名)
1	平成19年5月	大会議室の利用者が体調不良を訴え、主催者から救急搬送の依頼があった。	救急車を要請し、帝京大学医学部附属溝口病院に搬送された。
2	平成19年7月	大会議室の利用者の荷物が紛失し、盗難被害の申し出があった。	主催する代表者を通じて、参加者に注意喚起を行うとともに、警備員・職員による巡回を強化した。被害にあった利用者から、上小田中交番に遺失物届を提出した。
3	平成19年10月	ホールの利用者が客席の階段で躓いて膝を強打し、主催者から救急搬送の依頼があった。	救急車を要請し、横浜新都市脳神経外科病院に搬送された。
4	平成19年10月	ホールの利用者がロビーで転倒して頭部を裂傷し、主催者から救急搬送の依頼があった。	救急車を要請し、日本医科大学武蔵小杉病院に搬送された。
5	平成20年1月	大会議室の利用者が体調不良を訴え、主催者から救急搬送の依頼があった。	救急車を要請し、日本医科大学武蔵小杉病院に搬送された。
6	平成20年3月	平面駐車場の天井の電線等のパイプに運送会社のトラックが接触し、支柱が損傷した。	損傷箇所を修理し、再発防止のため、天井付近のパイプ等の衝突危険箇所に注意喚起の表示を取り付けした。

(10) 利用者からの意見・要望等への対応について

センターの受付窓口に設置している「意見箱」やセンターホームページの「意見募集欄」などで、利用者の意見・要望の把握に努めるとともに、苦情受付の対応と体制を明示して苦情の解決に努めました。

意見が2件、苦情が1件寄せられました。

(意見)

	受付月	意見等内容	対応
1	平成19年8月	車いすを使用する利用者から、5階の身障者用トイレの洗面台が大き過ぎ、手すりも邪魔であるため、車いす利用者にとって使い難いとの意見があった。	同様の意見が複数寄せられる場合は、所管課に報告し、対応を検討することとした。
2	平成19年10月	利用者から1階正面玄関前の歩道部分の植込み及び自転車放置防止柵の一部を取り除き、自動車乗降口の設置を希望する意見があった。	所管課に報告し、同様の意見が複数寄せられる場合は、所管課を交えて対応を検討することとした。

(苦情)

	受付月	苦情等内容	対応
5	平成20年1月	ホール利用者の平面駐車場への駐車を断ったことについて苦情が寄せられた。	主催者から予定以外の駐車は断るように指示が出されており、指示に基づいた警備員の対応であったため、主催者の理解を得た。

3 収支状況

平成19年度 川崎市総合福祉センター 収支決算書

収入内訳		
科目	金額	備考
受託金収入	168,057,246 円	
市受託金収入	168,057,246 円	川崎市指定管理委託料
事業収入	37,717,546 円	
参加費収入	105,400 円	社会福祉研修センター事業参加者参加費
利用料収入	36,271,776 円	施設・設備利用提供事業利用料
手数料収入	1,340,370 円	清涼飲料水自動販売機等手数料
雑収入	12,711 円	
雑収入	12,711 円	
受取利息配当金収入	1,766 円	
受取利息配当金収入	1,766 円	預金利息
前期末支払資金残高	6,946,857 円	前年度繰越金
収入合計	212,736,126 円	

支出内訳		
科目	金額	備考
人件費支出	32,130,896 円	
職員俸給	6,836,400 円	
職員諸手当	7,697,971 円	
嘱託職員給与	13,740,800 円	
法定福利費	3,855,725 円	職員社会保険料
事務費支出	237,336 円	
福利厚生費	39,936 円	職員健康診断料
研修費	2,400 円	
福利協会負担金	195,000 円	
事業費支出	162,598,529 円	
諸謝金	966,116 円	社会福祉研修センター事業講師等謝金
役職員旅費	20,160 円	
委員等旅費	2,900 円	
消耗品費	2,041,845 円	
器具什器費	315,240 円	
印刷製本費	504,056 円	総合福祉センターパンフレット等印刷代
水道光熱費	33,234,052 円	総合福祉センター電気・ガス・水道料金
車輛費	3,474 円	
車輛燃料費	3,336 円	
修繕費	4,626,446 円	総合福祉センター施設・設備修繕代

通信運搬費	982,125	円	
会議費	25,812	円	
広報費	346,500	円	社会福祉研修センター事業研修募集案内掲載料
業務委託費	113,695,394	円	総合福祉センター管理運営業務等委託料
手数料	212,389	円	
損害保険料	636,719	円	総合福祉センター指定管理者施設賠償責任保険料
賃貸料	1,509,132	円	パソコン、プリンタ等事務機器等リース料
租税公課	2,873,737	円	法人事業税、契約書印紙代
保健衛生費	127,794	円	
医薬品費	1,892	円	
図書資料費	469,410	円	
会計単位間繰入金支出	2,709,798	円	
法人運営事業経理区分繰入金支出	2,140,098	円	消費税
退職金積立事業経理区分繰入金支出	569,700	円	職員退職給与積立預金
固定資産取得支出及び繰入支出	399,000	円	
ソフトウェア取得	399,000	円	地域福祉情報バンク事業ソフトウェア取得料
支出合計	198,075,559	円	

収支差引	14,660,567	円	次年度へ繰越
------	------------	---	--------

4 まとめ

平成19年度は、5年間の指定管理期間の2年目にあたり、初めて一年を通してセンターの管理運営と事業実施に取り組みました。

18年度に引き続き、「施設・設備の利用提供事業」を適正に行うとともに、新たに、前年度の準備期間を経て、「地域福祉情報バンク事業」及び「社会福祉研修センター事業」に取り組みました。各事業とも、おおむね計画に沿って実施することができましたので、2年目についてもセンターの指定管理を着実に推進できたのではないかと考えております。

次年度、指定管理期間の中間年にあたる平成20年度に向けては、「地域福祉情報バンク事業」については、総合相談窓口の「専門相談」の周知を図るとともに、地域福祉情報データベースの製作に関しては、本会の「地域福祉情報バンクプロジェクト会議」で整理した情報の優先順位等を踏まえ、データベース全体の枠組み等について検討して行きます。また、データベースとは別に紙媒体による情報提供の実施についても検討を行います。

「社会福祉研修センター事業」については、地域福祉コーディネート技術研修（入門コース<2コース>、専門職コース<2コース>・地域活動者コース<2コース>）、社会福祉施設等職員研修（新任職員研修<2コース>、中堅職員研修Ⅰ・Ⅱ）、地域福祉活動入門研修<3コース>を開催します。また、効果的な研修を企画・実施できるように、引き続き、高齢社会福祉総合センター等の研修を実施しているセクションとの情報交換を行うとともに、研修の参加率を高めるための研修内容や効果的な広報(方法・時期)等について検討して行きます。

「施設・設備の利用提供事業」については、利用者のニーズ把握に努め、利便性を高めるとともに、施設・設備の経年による故障や老朽化に対応するための計画的な修繕を検討して行きます。

そのほか、利用者にとって利用しやすいセンターになるように、工夫や改善に取り組むとともに、コスト削減や効率性を意識した経営に努めます。

5 資料（次頁）

- (1) 地域福祉情報バンク事業資料
- (2) 社会福祉研修センター事業資料
- (3) 施設・設備の利用提供事業資料

●平成19年度 地域福祉情報バンク 総合相談事業の利用状況

・総合相談の利用者(実数)は、503人、延べ相談利用者は、2,429人(男性1652人、女性779人)の相談がありました。利用者の内訳として、電話相談は、2,318件、来所相談は75件、メールやFAXからの相談は、29件ありました。

1.相談種別件数・利用者数・相談方法

		合計	ふくし相談	障害者110番
開設日数		496	248	248
相談件数		2,422	1,177	1,245
実数		503	365	138
利用者数	述べ総数	2,429	1,184	1,245
	男性	1,652	627	1,025
	女性	779	559	220
相談経路	電話相談	2,318	1,108	1,210
	来所相談	75	63	12
	FAX、他	29	6	23

2. 相談者の利用歴

	合計	ふくし相談	障害者110番
初回相談	265	203	62
継続相談	2,115	948	1,167
再来相談	42	26	16
相談利用者	2,422	1,177	1,245

3.相談者の居住地域(区域)

	合計	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	市外、他
ふくし相談	1,177	206	74	302	30	184	54	55	272
実数	365	79	42	58	21	27	31	27	80
障害者110番	1,245	17	630	174	15	335	38	14	22
実数	138	12	30	24	6	22	20	9	15
総延べ件数	2,422	223	704	476	45	519	92	69	294
実数合計	503	91	72	82	27	49	51	36	95

4.相談所要時間

●電話相談

	合計	5分未満	～10分	～20分	～30分	～40分	～50分	～60分	～90分	～120分	121分以上
ふくし相談	1,108	245	232	250	167	143	41	16	10	2	2
障害者110番	1,210	251	339	272	154	86	58	31	17	2	0
合計	2,318	496	571	522	321	229	99	47	27	4	2

●来所相談

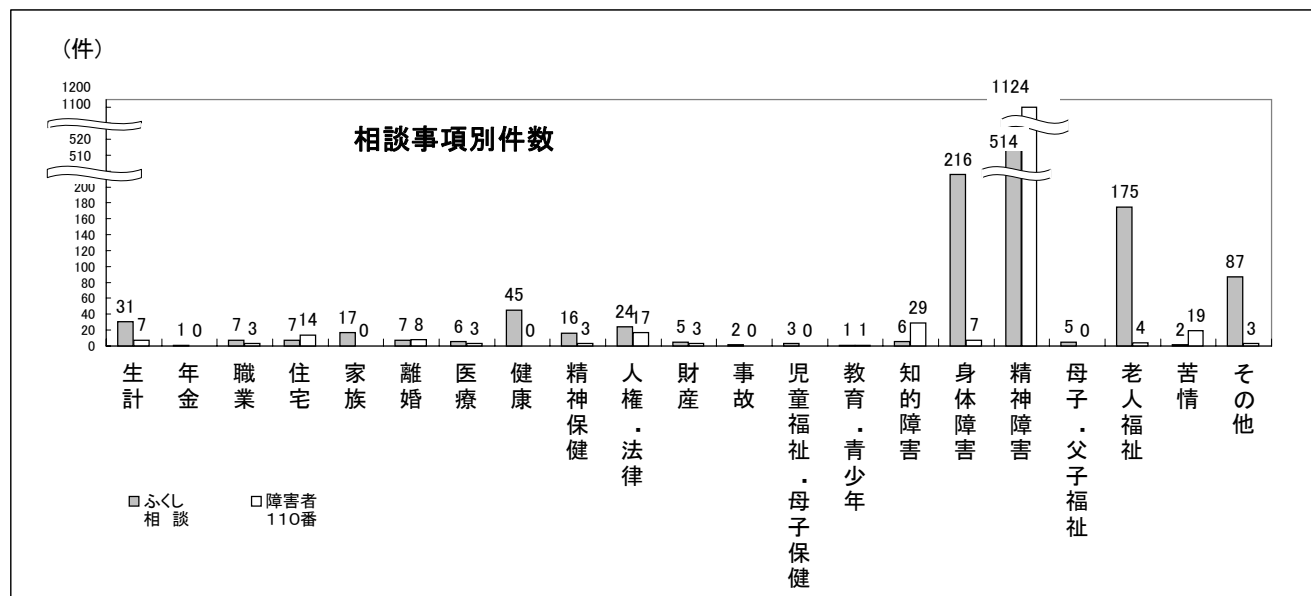
	合計	5分未満	～10分	～20分	～30分	～40分	～50分	～60分	～90分	～120分	121分以上
ふくし相談	63	3	8	11	6	4	7	9	9	4	2
障害者110番	12	0	1	1	0	0	2	1	2	3	2
合計	75	3	9	12	6	4	9	10	11	7	4

◎月刊延べ相談時間…

876 時間	2,393 件		
・電話相談…	807 時間	2,318 件	1件の平均相談時間 21分
・来所相談…	69 時間	75 件	1件の平均相談時間 56分

●平成19年度 地域福祉情報バンク 総合相談事業の相談事項別件数と処理状況 年間集計

大分類	番号	相談事項	件数	%	相談種別		区 別								処 理 状 況					実数
					ふくし相談	障害者110番	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生	他	解決	再来	専門相談	関係機関	傾聴	
暮らし・住い	1	生計	38	2%	31	7	5	4	8	1	1	11	2	6	4	4	4	16	10	4
	2	年金	1	0%	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	3	職業	10	0%	7	3	0	2	0	1	0	4	1	2	2	0	0	7	1	0
	4	住宅	21	1%	7	14	4	3	0	0	6	4	4	0	1	4	5	8	3	2
		小 計	70	3%	46	24	9	9	8	2	7	20	7	8	8	8	9	31	14	6
家族	5	家族	17	1%	17	0	1	0	7	0	4	2	0	3	0	6	2	8	1	0
	6	離婚	15	1%	7	8	0	0	1	2	5	6	1	0	1	6	0	8	0	3
		小 計	32	1%	24	8	1	0	8	2	9	8	1	3	1	12	2	16	1	3
健康・医療	7	医療	9	0%	6	3	0	1	0	0	0	2	6	0	0	2	0	6	1	2
	8	健康	45	2%	45	0	41	3	0	0	0	0	0	1	21	15	0	1	8	4
	9	精神保健	19	1%	16	3	4	2	10	2	0	0	0	1	8	1	2	4	4	5
		小 計	73	3%	67	6	45	6	10	2	0	2	6	2	29	18	2	11	13	11
法律	10	人権・法律	41	2%	24	17	9	3	12	3	3	9	1	1	0	15	12	11	3	10
	11	財産	8	0%	5	3	0	1	2	0	1	3	1	0	0	0	4	2	2	2
	12	事故	2	0%	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	2
		小 計	51	2%	31	20	9	4	14	3	5	12	2	2	0	15	16	14	6	14
福祉・教育	13	児童福祉・母子保健	3	0%	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
	14	教育・青少年	2	0%	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0
	15	知的障害	35	1%	6	29	1	2	1	0	2	19	4	6	2	15	1	6	11	2
		身体障害	223	9%	216	7	2	2	209	2	0	4	1	3	169	23	0	13	18	3
		精神障害	1638	68%	514	1124	94	623	158	16	489	15	35	208	347	145	6	17	1123	43
	16	母子・父子福祉	5	0%	5	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	4	0	2
	17	老人福祉	179	7%	175	4	42	52	57	1	5	8	4	10	61	35	4	53	26	29
		小 計	2,085	86%	920	1165	142	680	427	22	496	46	44	228	579	219	12	97	1,178	79
その他	18	苦情	21	1%	2	19	1	1	4	11	1	1	2	0	3	13	0	2	3	2
	19	その他	90	4%	87	3	16	4	5	3	1	3	7	51	49	4	1	30	6	28
		小 計	111	5%	89	22	17	5	9	14	2	4	9	51	52	17	1	32	9	30
合 計			2,422	100%	1,177	1,245	223	704	476	45	519	92	69	294	669	289	42	201	1,221	143



●平成19年度 地域福祉情報バンク 専門相談利用状況

1. 相談件数・相談内訳

相談日数 ※1	63
---------	----

相談件数	61
------	----

相談方法	来所	電話	情報バンク職員による相談
	27	0	34

相談内容内訳	財産侵害	財産管理	人権侵害(虐待・体罰)	人権侵害(偏見・差別)	相続/遺言	消費/金融/契約	施設関係	保健医療	就労労働問題	意志能力関係	成年後見	援助内容に対する助言	その他	合計
弁護士	1	3	1	1	4	4	0	1	3	0	0	3	6	27
医師(精神科)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	5
学識経験者 ※2(臨床心理士)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	4	29

※1 専門相談は原則各々月2回

※2 学識経験者(臨床心理士)の相談件数については、ふくし相談および障害者110番相談員のスーパービジョンの件数が含まれています。

●平成19年度 社会福祉研修センター事業 実施状況

◆ 地域福祉コーディネーター研修

	実施日	内容		講師	対象	受講人数
1	9月19・26日	基礎編	地域福祉コーディネーターの機能と基本プロセス・ 地域ニーズの捉え方・ 地域状況の把握・支援体制の構築・ 川崎市の地域福祉推進の現状 他	田園調布学園大学 人間福祉学部 地域福祉学科 教授 小野 敏明 氏 すずの会 代表 鈴木 恵子 氏	施設・団体・ 法人 所属職 員等	10
2	10月10・17日	基礎編	同上	同上	同上	12
3	11月 7・13日	実践編A (専門職向け)	地域福祉コーディネーターに求められるもの・ インフォーマルへの支援・ 地域ニーズの傾向と分析・ 地域状況の把握・支援体制の整備と形成 他	田園調布学園大学 人間福祉学部 地域福祉学科 教授 小野 敏明 氏	行政職員、社 協職員、施設 団体職員等	21
4	12月 4・11日	実践編B (地域活動者向け)	地域福祉コーディネーターに求められるもの・ 公的サービスの把握の仕方・ 地域ニーズの傾向と分析・ 地域状況の把握・支援体制の整備と形成 他	田園調布学園大学 人間福祉学部 地域福祉学科 教授 小野 敏明 氏	町会、民生委 員児童委員、 NPO、ボラン ティア等	24

◆ 社会福祉事業等職員研修

	実施日	内容		講師	対象	受講人数
1	7月20・27日	中堅職員研修 I	指導マネジメントの基本要素 ・ 問題対応能力を磨く・ 説得力の強化 ・ リーダーシップの強化 他	話し方教育センター	社会福祉施 設及び団体 職員(経験年 数10年以上 相当の職員)	22

2	10月16・23日	中堅職員研修 I	指導マネジメントの基本要素・ 問題対応能力を磨く・ 説得力の強化・ リーダーシップの強化 他	話し方教育センター	社会福祉施設及び団体職員(経験年数10年以上相当の職員)	17
3	11月30日・ 12月7日	中堅職員研修 II	コミュニケーショントレーニング・ 説明トレーニング・ 説得トレーニング聞き方のスキル 他	話し方教育センター	社会福祉施設及び団体職員(経験年数5年以上相当の職員)	28

◆ 地域福祉活動入門研修

	実施日	内容	講師	対象	受講人数
1	11月10日	重度のてんかんと知的障害をもつ少女のヒューマン・ドキュメンタリー映画「奈緒ちゃん」の上映と講演	映画監督 伊勢 真一 氏	一般	18
2	12月26日	地域作業所「ぴぐれっと」の20年を追ったドキュメンタリー映画「ぴぐれっと」の上映と講演	映画監督 伊勢 真一 氏 西村 記一 氏	同上	34
3	2月11日	てんかんと知的的のハンディをもつ少女と家族の25年間を追った長編ドキュメンタリー映画「ありがとう」の上映と講演	映画監督 伊勢 真一 氏 西村 信子 氏	同上	76

●平成19年度 川崎市総合福祉センター(エポックなかはら) 施設・設備の利用提供事業 利用状況一覧表

施設	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均稼働率
ホール	件数	57	51	52	65	59	59	68	57	61	46	54	74	703	69.1% (703/1018)
	人数	30,954	30,361	27,908	38,278	37,320	32,198	45,043	33,834	31,701	34,323	37,686	37,240	416,846	
	稼働率%	67.9	58.6	61.9	72.2	67.8	67.8	75.6	65.5	79.2	57.5	66.7	88.1		
第1楽屋	件数	23	36	36	41	42	31	36	29	33	30	31	50	418	40.6% (418/1028)
	人数	460	685	680	820	840	860	710	580	660	520	610	1,000	8,425	
	稼働率%	27.4	40.0	42.9	45.6	48.3	35.6	40.0	33.3	42.3	37.0	38.8	55.6		
第2楽屋	件数	32	44	37	49	45	49	48	41	47	37	44	57	530	51.5% (530/1029)
	人数	640	850	740	970	900	980	960	820	900	740	880	1,125	10,505	
	稼働率%	38.1	48.9	44.0	54.4	51.7	56.3	53.3	47.1	60.3	45.7	54.3	63.3		
第3楽屋	件数	35	42	39	43	41	48	41	37	43	35	46	62	512	49.8% (512/1029)
	人数	700	810	780	860	820	960	820	740	820	700	920	1,225	10,155	
	稼働率%	41.7	46.7	46.4	47.8	47.1	55.2	45.6	42.5	55.1	43.2	56.8	68.9		
大会議室	件数	42	58	67	63	38	55	71	50	53	75	55	77	704	67.7% (704/1040)
	人数	5,120	6,690	8,540	8,740	4,655	7,230	10,322	7,805	7,500	10,140	8,980	11,520	97,242	
	稼働率%	48.3	64.4	77.0	70.0	43.7	63.2	78.9	57.5	66.3	92.6	65.5	85.6		
第1会議室	件数	61	66	67	76	50	74	79	67	59	66	63	73	801	76.9% (801/1042)
	人数	556	614	625	690	431	670	729	566	544	594	542	641	7,202	
	稼働率%	68.5	74.2	77.0	84.4	57.5	85.1	86.8	77.0	73.8	81.5	75.0	81.1		
第2会議室	件数	57	60	61	76	53	78	70	74	57	71	66	73	796	76.2% (796/1044)
	人数	493	532	509	668	458	704	618	623	484	647	552	642	6,930	
	稼働率%	64.0	66.7	70.1	84.4	60.9	89.7	76.1	85.1	71.3	87.7	78.6	81.1		
第3会議室	件数	52	62	68	71	37	59	70	55	50	61	59	69	713	69.2% (713/1031)
	人数	2,088	2,723	3,022	3,213	1,846	2,780	3,520	2,570	2,408	3,400	2,892	3,635	34,097	
	稼働率%	59.8	69.7	79.1	79.8	43.0	68.6	76.9	64.0	63.3	76.3	71.1	77.5		
和室	件数	36	40	64	47	31	60	50	41	44	52	46	52	563	54.3% (563/1037)
	人数	485	505	845	591	378	755	593	490	493	654	557	610	6,956	
	稼働率%	41.4	44.4	73.6	52.2	35.6	69.0	57.5	47.1	55.0	64.2	54.8	57.8		

〈楽屋を除く施設の利用状況（ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室）〉

合計	件数	305	337	379	398	268	385	408	344	324	371	343	418	4,280	68.9% (4280/6212)
	人数	39,696	41,425	41,449	52,180	45,088	44,337	60,825	45,888	43,130	49,758	51,209	54,288	569,273	
	稼働率%	58.3	63.0	73.2	73.8	51.4	73.9	75.4	66.0	68.1	76.7	68.6	78.4		
	楽屋を除く利用可能区分数	523	535	518	539	521	521	541	521	476	484	500	533	6,212	

※稼働率(%)は、件数(利用された区分数)を利用可能区分数で除した割合です。